

1.	“政策のための科学” プログラム 関連部局・参画教員一覧.....	2
2.	“政策のための科学” プログラムの概要.....	3
3.	教育課程.....	6
4.	平成 29 年度 “政策のための科学” プログラム授業科目一覧表.....	7
5.	平成 29 年度 “政策のための科学” プログラム授業科目時間割.....	8
6.	平成 29 年度 “政策のための科学” プログラム授業科目詳細.....	9
6.1	現代社会と科学技術.....	9
6.2	科学技術イノベーション政策特別演習.....	10
6.3	研究プロジェクト.....	11
6.4	現代社会と科学技術入門.....	12
6.5	科学技術イノベーション政策総合演習.....	13
6.6	情報リテラシー基礎 I.....	14
6.7	医薬政策・行政.....	15
6.8	問題解決思考.....	16
6.9	疫学 I (疫学入門).....	17
6.10	公共政策論 I.....	18
6.11	科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング.....	19
6.12	可視化シミュレーション学.....	20
6.13	医薬品の開発と評価.....	21
6.14	京都学のための科学.....	22
6.15	応用経済学.....	23
6.16	政策のための研究方法論.....	24
6.17	医療政策の ELSI [ELSI イシュー科目群].....	25
6.18	健康情報学 I.....	26
6.19	文献評価法.....	27
6.20	技術者倫理と技術経営.....	28
6.21	医療経済学 A.....	29
6.22	共生社会環境論演習 3 B.....	30
6.23	まちづくりとまち経営.....	31
7.	(参考) 大阪大学カリキュラム.....	32

## 1. “政策のための科学” プログラム 関連部局・参画教員一覧

平成 29 年 3 月現在

### 【関連部局：13】

医学研究科、工学研究科、人間・環境学研究科、農学研究科、文学研究科、経済学研究科、理学研究科、経営管理大学院、経済研究所、医学部付属病院、化学研究所、学術情報メディアセンター、学際融合教育研究推進センター

### 【参画教員：19】

部局	職名	氏名
医学研究科	教授（ユニット長）	川上浩司
学術情報メディアセンター	教授(副ユニット長)	小山田耕二
経済学研究科	教授	依田高典
経営管理大学院	教授	末松千尋
経営管理大学院	教授	御手洗潤
工学研究科	教授	富田直秀
医学研究科	教授	中山健夫
農学研究科	教授	宮川恒
化学研究所	教授	二木史朗
人間・環境学研究科	教授	佐野亘
文学研究科	准教授	伊勢田哲治
医学部附属病院	准教授	齊藤永
経済研究所	准教授	広田茂
経済研究所	准教授	小嶋大造
理学研究科	講師	市川正敏
学際融合教育研究推進センター	准教授	宮野公樹
学際融合教育研究推進センター	特任教授	カール・ベッカー
学際融合教育研究推進センター	特定助教	尾上洋介
学際融合教育研究推進センター	特定助教	井出和希

## 2. “政策のための科学” プログラムの概要

(<http://www.stips.kyoto-u.ac.jp/>)

我が国の第4期科学技術基本計画が掲げる「社会及び公共のための政策」「社会とともに創り進める政策」としての科学技術イノベーション政策の形成のためには、科学技術や公共政策に対する社会の期待・懸念・問題認識を把握し、反映させていくことが求められています。このような認識のもと、京都大学は、文部科学省より大阪大学と合同での「政策のための科学」領域拠点として今後15年間選定され、2012年2月より学際融合教育研究推進センターに政策のための科学ユニットが設置されました。この大阪大学および京都大学の連携による人材育成プログラム「公共圏における科学技術・教育研究拠点 (Program for Education and Research on Science and Technology in Public Sphere; STiPS)」については、<http://stips.jp/>をご参照ください。

科学技術イノベーション政策の形成のためには、定量的なエビデンスに加え、社会の多様な主体による熟議（対話と熟慮）を含む「科学技術への公共的関与 (public engagement)」や「科学技術の倫理的・法的・社会的問題 (Ethical, Legal and Social Issues; ELSI)」研究が生み出すエビデンスが不可欠です。この認識のもと、2013年度から本学の大学院生に対して開講する人材育成プログラムでは、本領域の研究を基盤として公共的関与の活動と分析を行い、学問諸分野間、ならびに学問と政策・社会の間を“つなぐ”ことを通じて政策形成に寄与できる人材の育成を目指します。修了生は、主専攻の専門性を中心としつつ、さらに「政策のための科学」の素養を備えた人材として、国際機関、中央政府、地方行政自治体、研究大学における研究戦略関連職、政策秘書、シンクタンク、企業のリスクコミュニケーション担当者などをキャリアパスとすることを想定しています。研究においては、政策を実施すべき各分野において、何を仮説として設定するのか、また、複数の異なる領域、価値観から、どのように優先順位をつけて予算配分をするのかといった問題が重要な課題です (図1)。

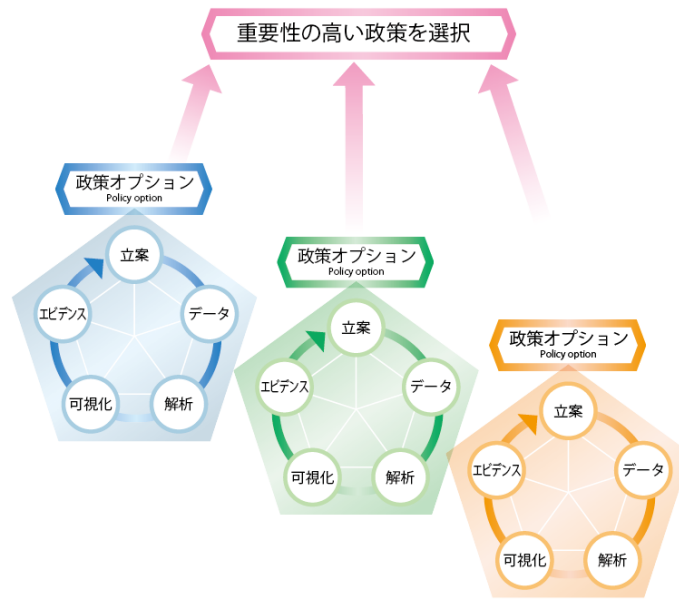


図 1 さまざまな領域からの政策決定の概念図

定量的なエビデンスにおいては、実世界における各種のデータを可視化し、そこから様々な手法で解析評価をする手法の深化も重要です。医療分野を例にとると、ヘルステクノロジーアセスメント (Health Technology Assessment; HTA) は、医療の質を評価して実行する Evidence-based medicine (EBM)、さらに EBM を実施するなかで、その費用対効果を評価する比較効用分析 (Comparative Effectiveness Research; CER) を内包しています。いずれの研究手法も、疫学、医療統計、行動科学などの科学にもとづいており、実世界のデータからエビデンスへ、エビデンスから政策へ、そして政策を実施したのちにそれを評価していくというサイクルが形成されていくことになります (図 2)。

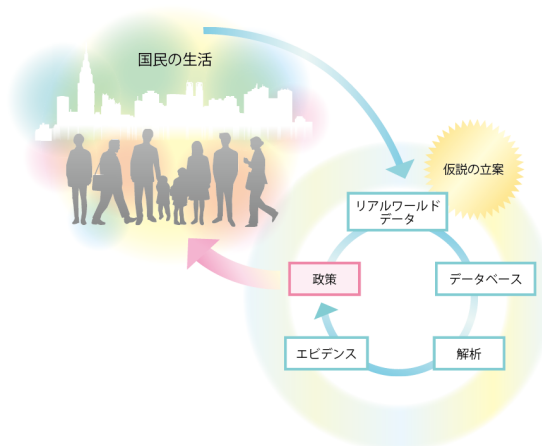


図 2 エビデンスベースの政策決定の概念図

重要な科学技術分野であるエネルギー、環境、農業、食品、工学、宇宙などのテクノロジーアセスメント（TA）においてもこのような手法は有用と考えられ、さまざまな分野において同様な研究を実施していくことは、政策のための科学として大変重要と考えられます。さらに私たちは、さまざまな学際領域の研究者同士が議論し、定量的研究、定性的研究と組み合わせて新しい学問を開拓していくことを目指したいと考えています。

### 3. 教育課程

#### 【カリキュラムの構成】

科目カテゴリー		単位数
入門必修科目：リレー講義		2 単位
必修科目：ディスカッション型授業		2 単位
連携必修科目：研究レポートの作成		2 単位
選択科目 I 基軸科目群	例) 科学技術政策とコミュニケーション 夏期セミナー合宿	1 科目以上
選択科目 II イシュー科目群	科学技術イノベーションと倫理的・法的・社 会的問題 (ELSI)、ホットイシュー	1 科目以上

\*大阪大学で開講されている提携カリキュラムに関しては、当プログラム受講が決定した時点で受講者に大阪大学のシラバスを周知します。

#### 【修了要件（必修：6 単位）】

研究指導を受け、合計 14 単位（うち必修 6 単位）を取得することが修了要件です。

科目カテゴリー	履修内容等	単位数
入門必修科目	『現代社会と科学技術』	2 単位
必修科目	『科学技術イノベーション政策特別演習』	2 単位
連携必修科目	『研究プロジェクト』	2 単位
選択科目 I・II	2 カテゴリーから最低 1 科目ずつ受講が必要	8 単位以上
計		14 単位以上

- ① 研究プロジェクトについては、専門職学位過程あるいは博士課程における研究に関連しても構いません。指導は本プログラム担当教員が行います。
- ② 修了者には京都大学、大阪大学合同のプログラム認定証を授与します。

#### 4. 平成 29 年度 “政策のための科学” プログラム授業科目一覧表

区分	科目名	期間		主担当教員（研究科）	単位	
		前期	後期			
入門必修科目	現代社会と科学技術		○	川上教授ら（医学研究科）	2	
連携必修科目	科学技術イノベーション政策特別演習	夏期集中		川上教授ら（医学研究科）	2	
必修科目	研究プロジェクト	通年		川上教授ら（医学研究科）	2	
選択科目（8単位以上）	選択科目Ⅰ…基礎科目群（1科目以上選択）	現代社会と科学技術入門	○		川上教授ら（医学研究科）	1
		科学技術イノベーション政策総合演習	夏期集中		川上教授ら（医学研究科）	2
		情報リテラシー基礎Ⅰ	○		小山田教授（学術情報メディアセンター）	2
		医薬政策・行政		○	川上教授（医学研究科）	1
		問題解決思考		○	末松教授（経営管理大学院）	2
		疫学Ⅰ（疫学入門）	○		中山教授（医学研究科）	1
		公共政策論Ⅰ		○	佐野教授（人間・環境学研究科）	2
		科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング	○		伊勢田准教授（文学研究科）	2
		選択科目Ⅱ…イシニュー科目群（1科目以上選択）		○	小山田教授（学術情報メディアセンター）	2
		可視化シミュレーション学		○	小山田教授（学術情報メディアセンター）	2
		医薬品の開発と評価		○	川上教授（医学研究科）	1
		京都学のための科学	○		小山田教授（学術情報メディアセンター）	2
		応用経済学		○	依田教授（経済学研究科）	2
		政策のための研究方法論	○		ベッカー教授（こころの未来研究センター）	2
		医療政策の ELSI		○	ベッカー教授（こころの未来研究センター）	2
		健康情報学Ⅰ		○	中山教授（医学研究科）	2
		文献評価法	○		中山教授（医学研究科）	1
		技術者倫理と技術経営	○		榎木教授ら（工学研究科）	2
		医療経済学 A	○		後藤准教授（慶應義塾大学）	2
		共生社会環境論演習 3 B		○	佐野教授（人間・環境学研究科）	2
	まちづくりとまち経営		○	御手洗教授（経営管理大学院）	2	

## 5. 平成 29 年度 “政策のための科学” プログラム授業科目時間割

### 前期開講科目

前期	月	火	水	木	金
1 限			政策のための研究 方法論 (2)	現代社会と科学技術入 門 (1)	
2 限					
3 限				技術倫理と技術経営 (2) 医療経済学 A (2:隔週)	疫学 I (疫学入 門) (1)
4 限	文献評価法 (1)		京都市のための科 学 (2)	医療経済学 A (2:隔週)	疫学 I (疫学入 門) (1)
5 限		情報リテラシー基 礎 I (2)			

( ) 内は単位数

### 後期開講科目

後期	月	火	水	木	金
1 限			医療政策の ELSI [ELSI イシュー科目群] (2)		
2 限			医薬政策・行政 (1) / 医薬品の開発と評価 (1)	現代社会と科学技術 (2)	健康情報学 (2)
3 限			応用経済学 (2)	まちづくりとまち経営 (2)	公共政策論 I (2)
4 限		問題解決思考 (2:隔週) 可視化シミュレーション 学 (2)			
5 限		問題解決思考 (2:隔週) 共生社会環境論演習 3B (2) 科学技術と社会に関わる クリティカルシンキング (2)			

( ) 内は単位数



## 6. 平成 29 年度”政策のための科学”プログラム授業科目詳細

### 6.1 現代社会と科学技術

授業科目名	現代社会と科学技術		講義担当者 所属・氏名	医学研究科教授 川上浩司ほか			
開講場所	国際高等教育院棟	配当学年	1年次推奨	単位数	2	開講期	後期
講義担当部局	医学研究科		曜時間	木 2	授業形態	実習	
〔授業の概要・目的〕							
<p>本講義は、「政策のための科学」プログラムの必修科目の1つ(入門必修科目)である。</p> <p>本講義は、現代社会と科学技術入門と一貫した講義であり、受講者は現代社会と科学技術入門の講義から継続した受講が必要である。</p> <p>「政策のための科学」プログラムにおいては、科学と社会、政策とを「つなぐ人材」の要請を目標としている。この目的のために、様々な関連トピックを取り上げて、講師からの話題提供と、それに基づいた学生間のディスカッションを行い、科学の多様性と社会、政策を考えるための端緒とする。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>【予定・内容】</p> <p>第 1 回 10 月 5 日 トランス・サイエンスと Participatory Technology Assessment (平川:大阪大学コミュニケーションデザインセンター)</p> <p>第 2 回 10 月 12 日 ライフサイエンス研究の倫理とガバナンス (加藤:大阪大学大学院医学研究科)</p> <p>第 3 回 10 月 19 日 都市政策の立案 (御手洗:経営管理大学院)</p> <p>第 4 回 10 月 26 日 現代民主主義のもとでの政策決定 (佐野:人間・環境学研究科)</p> <p>第 5 回 11 月 02 日 データ可視化と政策立案 (小山田:学術情報メディアセンター)</p> <p>第 6 回 11 月 09 日 社会的課題と情報通信技術の役割 (齊藤:医療情報企画部)</p> <p>第 7 回 11 月 16 日 研究の進捗確認 (全教員)</p> <p>第 8 回 11 月 30 日 化学物質のリスク評価とリスク管理 (宮川:農学研究科)</p> <p>第 9 回 12 月 07 日 「政策のための科学」の計量書誌学データ分析 (依田:経済学研究科)</p> <p>第 10 回 12 月 14 日 医療費の増加と医療技術評価 (後藤:慶応大学)</p> <p>第 11 回 12 月 21 日 技術の質の評価 (富田:工学研究科)</p> <p>第 12 回 12 月 28 日 未定 (ベッカー:学際融合教育研究推進センター)</p> <p>第 13 回 1 月 11 日 クリティカルシンキングの観点からみた科学技術と社会 (伊勢田:文学研究科)</p> <p>第 14 回 1 月 18 日 トランザクション・コストと経済政策 (末松:経営管理大学院)</p> <p>第 15 回 1 月 25 日 移植医療の社会的価値 (瓜生原:同志社大学商学部)</p> <p>第 16 回 2 月 2 日 振り返りワークショップ (宮野:学際融合教育研究推進センター)</p> <p>※ 最新情報は <a href="http://www.stips.kyoto-u.ac.jp/">http://www.stips.kyoto-u.ac.jp/</a> を参照すること。</p>							
〔履修要件〕							
本コースは現代社会と科学技術入門と一貫した講義であり、受講者は現代社会と科学技術入門の講義から継続した受講が必要である。							
平常点(出席を含む、50%)、レポート(50%)							
〔教科書〕							
特になし							
〔参考書等〕							
特になし							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
面談希望は必ずメールで kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp までご連絡下さい。							

## 6.2 科学技術イノベーション政策特別演習

授業科目名	科学技術イノベーション政策特別演習		講義担当者 所属・氏名	医学研究科 教授 川上浩司 工学研究科 教授 富田直秀 文学研究科 准教授 伊勢田哲治 学際融合教育研究推進センター 准教授 宮野公樹			
開講場所	国際高等教育院棟	配当学年	1年次	単位数	2	開講期	夏季 集中
講義担当部局	医学研究科		曜時限	授業形態		実習	
〔授業の概要・目的〕							
<p>本講義は、「政策のための科学」プログラムの必修科目の1つである。 異なる研究科の学生による、自らの専門分野の紹介プレゼンテーション及び具体的な科学技術的テーマをめぐる相互討論を行い、ディスカッションを通じて、課題となる科学技術と社会のかかわりについて理解し、具体的な議論手法を身につけることを目指す。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>学生は事前に発表準備(予習)をし、授業で発表を行う。また授業後にはレポートを課す(復習)。 予習:学生による発表準備</p> <p>1日目 8月31日(木) 川上教授・富田教授 (5コマ:7.5時間) 1, 2限 人口動態と社会保障からみた健康政策 (川上教授) 3, 4限 技術の質の評価 (富田教授) 5限 全体ディスカッション (川上教授、富田教授)</p> <p>2日目 9月1日(金) 伊勢田准教授・宮野准教授 (5コマ:7.5時間) 1, 2限 科学技術について対話するスキルを磨く (伊勢田准教授) 3, 4限 異分野融合とは?その意味と意義 (宮野准教授) 5限 全体ディスカッション (伊勢田准教授、宮野准教授)</p> <p>復習:レポート提出</p> <p>※ 最新情報は <a href="http://www.stips.kyoto-u.ac.jp/">http://www.stips.kyoto-u.ac.jp/</a> を参照すること。</p>							
〔履修要件〕							
特になし							
〔成績評価の方法・基準〕							
出席点、講義への貢献度、講義中に課すレポートおよび最終レポートにより評価する。							
〔教科書〕							
特になし							
〔参考書等〕							
特になし							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							

### 6.3 研究プロジェクト

授業科目名	研究プロジェクト		講義担当者 所属・氏名	医学研究科 教授 川上浩司 ほか			
開講場所	不定	配当学年	2年次	単位数	2	開講期	通年
講義担当部局	医学研究科		曜時限	不定	授業形態	実習	
〔授業の概要・目的〕							
<p>本講義は、「政策のための科学」プログラムの必修科目の一つである。プログラム2年目に履修すること。</p> <p>公共的視点から科学技術と政策や社会とをつなぐ活動や成果物の作成を行うことにより、自らの専攻分野を生かしつつ、プログラムで学んだ知識やスキルを活用する能力を獲得する。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>科学技術イノベーション政策に関連する具体的なトピックと方法論を用いて、「政策のための科学」に関連する個人研究もしくは共同研究のプロジェクトを実施し、小論文・研究レポート(日英可)を作成する。それぞれの研究テーマや進捗に合わせ、プログラム関連教員による個別指導を中心に進める(プロジェクトの内容に関しては、各自の専門の学位論文に関連したもので可)。</p> <p>1年次に研究計画を策定し、テーマ発表会を行う。</p> <p>2年次に京都大・大阪大の合同発表会を実施する。時期については追って説明する。</p>							
〔履修要件〕							
履修前に、所属研究科の指導教員、および、本科目の担当教員に、研究計画等について相談すること。							
〔成績評価の方法・基準〕							
成果物・提出物により、総合的に判断する。							
〔教科書〕							
研究指導担当教員の指示による。							
〔参考書等〕							
研究指導担当教員の指示による。							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
研究指導担当教員の指示による。							

#### 6.4 現代社会と科学技術入門

授業科目名	現代社会と科学技術入門		講義担当者所属・氏名	医学研究科教授 川上浩司 ほか			
開講場所	国際高等教育院棟	配当学年	1年次推奨	単位数	1	開講期	前期
講義担当部局	医学研究科		曜時限	木1	授業形態	講義/実習	
〔授業の概要・目的〕							
<p>本講義は、「政策のための科学」プログラムの選択科目の1つである。</p> <p>本講義は、現代社会と科学技術と一貫した講義であり、受講者は原則として本講義を先に受講する必要がある。</p> <p>「政策のための科学」プログラムにおいては、科学と社会、政策を「つなぐ人材」の育成を目標としている。この目標のために、様々な関連トピックを取り上げて、講師からの話題提供と、それに基づいた学生間のディスカッションを行い、科学の多様性と社会、政策を考えるための端緒とする。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>【予定・内容】</p> <p>第1回 5月11日 科学的方法について（小山田：学術情報メディアセンター）</p> <p>第2回 5月18日 健康福祉政策と情報の利活用（川上：医学研究科）</p> <p>第3回 5月25日 大学における学問とは？ 分野融合・越境のダイナミクス（宮野：学際融合教育研究推進センター）</p> <p>第4回 6月01日（調整中）</p> <p>第5回 6月08日 疫学とゲノム科学から社会基盤を考える（中山：医学研究科）</p> <p>第6回 6月15日 研究の進め方（全教員）</p> <p>第7回 6月22日 政策形成とエビデンス－経済政策を事例に－（小嶋：経済研究所）</p> <p>第8回 6月29日 現代の医療技術が起こす倫理問題とその政策（ベッカー：学際融合教育研究推進センター）</p> <p>第9回 7月06日 振り返りワークショップ（宮野：学際融合教育研究推進センター）</p> <p>第10回 7月13日 研究の進捗確認（全教員）</p> <p>※ 最新情報は <a href="http://www.stips.kyoto-u.ac.jp/">http://www.stips.kyoto-u.ac.jp/</a> を参照すること。</p>							
〔履修要件〕							
<p>本講義は、現代社会と科学技術と一貫した講義であり、受講者は原則として本講義を先に受講する必要がある。</p>							
〔成績評価の方法・基準〕							
出席(50%)、レポート(50%)							
〔教科書〕							
特になし							
〔参考書等〕							
特になし							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
面談希望は必ずメールで kawakami.koji.4e@kyoto-u.ac.jp までご連絡下さい。							

6.5 科学技術イノベーション政策総合演習

授業科目名	科学技術イノベーション政策総合演習		講義担当者 所属・氏名	医学研究科教授 川上浩司 ほか			
開講場所	課外	配当学年	1年次推奨	単位数	2	開講期	夏季 集中
講義担当部局	医学研究科		曜時限	集中	授業形態	講義/実習	
〔授業の概要・目的〕							
<p>本講義は、「政策のための科学」プログラムのオリジナル科目の一つ(選択科目Ⅰ:基軸科目群)である。プログラム1年目に履修することが望ましい。</p> <p>当該分野の先端的な知見を得るとともに、様々な視点から検討する。問題分析や政策提言等のグループワークを通じて、得られた知識の応用力を高めるとともに、各拠点の学生間の知的交流を促進する。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点(京都大学・大阪大学連携、政策研究大学院大学、東京大学、一橋大学、九州大学)合同の合宿セミナー。各拠点およびゲスト講師による講義とともに、共同で問題分析や政策提言等の作成を行うグループワークを行う。夏期休暇中に、2泊3日程度の合宿形式で行われる。</p> <p>本年度は8~9月頃に、東京近郊での実施を予定している。尚、大阪大学にて合宿事前ワークショップを開催する。</p>							
〔履修要件〕							
プログラム1年目に履修することが望ましい。							
〔成績評価の方法・基準〕							
成果物・提出物により、総合的に判断する。							
〔教科書〕							
特になし							
〔参考書等〕							
特になし							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							

6.6 情報リテラシー基礎 I

授業科目名	情報リテラシー基礎 I		講義担当者 所属・氏名	学術情報メディアセンター 教授 小山田 耕二			
開講場所	総合研究 5 号館	配当学年	主に1, 2回生	単位数	2	開講期	前期
講義担当部局	学術情報メディアセンター		曜時限	火5	授業形態	ゼミ	
<p>〔授業の概要・目的〕</p> <p>文系・理系を問わずあらゆる分野において研究を遂行するために必要とされる情報活用能力について体験的に学習させることを本講義のテーマとする。学生が興味を持つ研究分野を決定させ、全学の 研究において共通している情報活用能力”(例えば、表計算ソフトを使った情報分析・可視化技術 を使った情報表現、シミュレーション技術を使った情報創造、論文発表による情報発信、大型表示 装置を使った研究発表等)を習得させる。</p> <p>〔授業外学習(予習・復習)等〕</p> <p>学生の関心のもつ研究課題を授業前に調査しておき、授業中には、それらをクラスメンバーと共有しておく。クラスメートからのフィードバックを受けて、授業後に追加的調査を行う。</p>							
<p>〔授業計画と内容〕</p> <p>この科目を履修し、学修目的を達成した結果、社会のもつ課題の解決策をデザインするための情報活用能力を習得できる。解決策のデザインとして、科学的方法を代表する仮説検証法を活用できるようになる。</p> <p>また、データ取得に必要な基本的素養を身につけ 仮説検証で必要となるデータとしては、各種オープンデータ、そして必要な場合には、学生自ら取得したデータを利用できるようになる。</p> <p>以下のような課題について、1 課題あたり 1～3 週の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス</li> <li>2.科学的方法(仮説検証法について)</li> <li>3.情報を収集する(学術論文の探索と評価・図書館で公開された論文を読む)(提出物:論文抄 録)</li> <li>4.情報を整理する(アンケート調査の実施)(提出物:アンケート案・実施手順・結果)</li> <li>5.情報を分析する(Excelを使った情報分析)(提出物:結果のモデル化・考察)</li> <li>6.情報を表現する(Wordを使った論文形式レポート作成・ピアレビュー・PowerPoint によるプレゼン)</li> <li>7.最終発表(日本語による口頭発表・表彰式)</li> </ol>							
<p>〔履修要件〕</p> <p>インターネット、電子メール、ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトについて利用経験がある、もしくは授業期間内に自習できること</p>							
<p>〔成績評価の方法・基準〕</p> <p>別途ホームページで指示する投稿規程・要領に従って執筆された研究成果レポート(60%)とグルー プディスカッションにおける積極性等(40%)を考慮して成績評価を行なう。</p>							
<p>〔教科書〕</p> <p>『研究ベース学習』(コロナ社)ISBN:139784339077933</p>							
<p>〔参考書等〕</p> <p><a href="http://ocw.kyoto-u.ac.jp/general-education-jp/introduction-to-researcha/lecturenote">http://ocw.kyoto-u.ac.jp/general-education-jp/introduction-to-researcha/lecturenote</a>(OCW 講義ノート URL( ~2010 年度))</p>							
<p>〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕</p> <p>本講義では、本格的な研究活動を課するのではなく、研究という現場を体験させながら情報教育を 実践することを目的とする。具体的には、1)自分が興味をもつ学問分野に関連する「情報」を収集する。具体的には質の高い知識創造の瞬間に立ち会うことができるよう、できるだけ早い時期に研究対象に興味をもつ研究室を訪問する。2)収集した「情報」を他人にわかりやすく説明する。当該学問分野における学会投稿を想定した 論文を執筆し、その内容にしたがった学術講演を行う。1)に関連して Web ベース情報収集・情報整理、また2)に関連して情報表現(論文執筆能力・プレゼン能力)に関するスキルを自ら身につけることを目標とする。</p>							

6.7 医薬政策・行政

講義科目名	医薬政策・行政		講義担当者 所属・氏名	医学研究科・教授・川上 浩司			
開講場所	医学部G棟 2階セミナー室A	配当学年	専門職	単位数	1	開講期	後期前半
講義担当部局	医学研究科		曜時限	水 2	授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕							
<p>本コースは医学研究科社会健康医学系専攻の MPH コア科目の一つです。医薬品、医療機器に関して、日本および海外の健康政策、産業政策と行政を俯瞰します。社会福祉、財務、食品衛生、医薬経済の観点から、国際的な医薬品認可行政、経済性との整合、ライフサイエンス研究とトランスレーショナルリサーチの実際についても学びます。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬政策・行政、食品衛生行政、社会福祉に関連した政策の基本的考え方、方法論を理解している。</li> <li>・医薬経済、トランスレーショナルリサーチの政策上の取組の基本的考え方、方法論を理解している。</li> </ul>							
〔授業計画と内容〕							
<p>第1回 10月4日 医薬政策、行政の潮流（川上）</p> <p>第2回 10月11日 日本における医薬行政と最近の動向（佐藤大）</p> <p>第3回 10月18日 米国連邦政府における医薬行政（川上）</p> <p>第4回 10月25日 食品衛生行政（西嶋）</p> <p>第5回 11月8日 医療機器の行政、研究開発と課題（川上）</p> <p>第6回 11月15日 Healthcare Systems - Challenges and (Elze)</p> <p>第7回 11月22日 トランスレーショナル研究と医療産業都市構想（村上）</p>							
〔履修要件〕							
<p>本コース終了の翌週から継続して講義が行われる H079「医薬品の開発と評価」と連続、一括した内容となっており、原則として通して受講できない方は受け入れ不可とします。また、同日 3・4 限の H099「医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査」も本講義の内容を掘り下げたもので、合わせて受講することを推奨します。</p>							
〔成績評価の方法・基準〕							
講義の場への参加(50%)、レポート(50%)							
〔教科書〕							
<p>推奨テキスト</p> <p>安生紗枝子ら「新薬創製への招待:開発から市販後の監視まで」(共立出版)</p> <p>川上浩司編著「遺伝子医学 MOOK 別冊 はじめての臨床応用研究」(メディカルドゥ社)</p>							
〔参考書等〕							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
人間健康科学系専攻学生の受講可否: 可 ※オフィスアワー実施の有無は、KULASIS で確認してください							

6.8 問題解決思考

授業科目名	問題解決思考		講義担当者 所属・氏名	経営管理大学院 教授 末松千尋			
開講場所	総合研究棟2号館3階 経営管理大学院 ケース・スタディ演習室	配当学年		単位数	2	開講期	後期
講義担当部局	経営管理大学院		曜時限	火4、5 (隔週)	授業形態	演習	
〔授業の概要・目的〕							
<p>戦略コンサルティング業界で広く使われている「フレームワークを活用した問題解決技法」、「システム思考」を基本として、戦略構築、組織・プロセス設計、IT設計、問題の整理と構造化による解決などのスキルを習得する。事例や演習を通して、実践的に学習する。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>【予定・内容】</p> <p>第1部 問題提起および講座の目的の説明          第2部 システム思考講座</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義</li> <li>● MECE演習</li> </ul> <p>第3部 「対立の構造化」：『放任教育 vs 管理教育』          第4部 「表計算ソフトによるビジネス・プランの構造化」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ビジネス・プランの作成</li> <li>● 視覚化</li> </ul> <p>第5部 「問題の構造化」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 『ダブルバインド』</li> <li>● 『組織の標準的発展形態』</li> </ul> <p>第6部 グループ・ディスカッションⅠ：実務ケースにおけるシステム思考の適用          第7部 グループ・ディスカッションⅡ：コンサルなどのGDの過去問から選択          第8部 演習</p>							
〔履修要件〕							
特になし							
〔成績評価の方法・基準〕							
クラスにおけるコラボレーションへの貢献度、レポート							
〔教科書〕							
特になし							
〔参考書等〕							
授業中に紹介する							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
授業後							



6.9 疫学 I (疫学入門)

授業科目名	疫学 I (疫学入門)		講義担当者 所属・氏名	医学研究科 教授 中山健夫 他			
開講場所	G 棟 2F セミナー室 A	配当 学年	主に1・2回生	単位数	1	開講期	前期
講義担当部局	医学研究科		曜時限	金3・4	授業形態	講義, 視聴覚教材	
〔授業の概要・目的〕							
<p>本コースは医学研究科社会健康医学系専攻の必須科目の一つです。          臨床研究を含む社会健康医学(パブリックヘルス)領域において、最も基本となる疫学の考え方、方法論についての入門的な講義を行います。          原則として金曜3限ですが、3限と4限の2コマ連続で講義をおこなう場合があります(下記コース予定・内容参照)。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 症例研究や基礎的研究と異なる「人間集団を対象とする」という疫学研究の意義と可能性を理解してもらえればと願っています。</li> <li>● 本コースの内容の多様性と一貫性を保つために、担当教員はシラバス作成時、学期中、終了後など、適宜、意見交換を行い、講義資料を共有して連携を図っています。</li> <li>● 留学生対応として、講義資料の事前提供、Key term の日英併記を進めます。</li> <li>● 平成27年度から疫学(2単位)を疫学I・II(各1単位)に分割し、疫学IはIIよりも先に開講して、研究デザインの基本事項を講義することになりました。</li> <li>● 特別講義の予定は初回の講義で説明します。</li> </ul> <p>第1回 4月14日(3限) イントロダクション(1)(中山)          第2回 4月14日(4限) イントロダクション(2)(佐藤)          第3回 4月21日(3限) コホート研究・症例対照研究(中山)          第4回 4月28日(3限) 介入研究(川村)          第5回 4月28日(4限) 対象者の追跡(川村)          第6回 5月12日(3限) 疫学をめぐる最近の話題(中山)          第7回 5月12日(4限) 記述疫学・高齢者の疫学研究(石崎)          第8回 5月19日(3限) 視聴覚教材「大いなる航海」(中山)          5月26日(3限) テスト          特別講義予定あり</p>							
〔履修要件〕							
特になし							
〔成績評価の方法・基準〕							
・テスト(80%)、毎回の小レポート提出(20%)							
〔教科書〕							
講義資料は配布							
〔参考書等〕							
<p>(推薦テキスト。購入は必須ではありません。)          川村孝著「エビデンスをつくる」(医学書院)          中山健夫・津谷喜一郎編著「臨床研究と疫学研究のための国際ルール集」(ライフサイエンス出版)          矢野栄二・橋本英樹監訳「ロスマンの疫学」篠原出版新社          厚生統計協会編集「図説・国民衛生の動向」厚生統計協会</p>							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
面談希望はまずメールでご連絡下さい。nakayama.takeo.4a@kyoto-u.ac.jp							

## 6.10 公共政策論 I

授業科目名	公共政策論 I	講義担当者 所属・氏名	人間・環境学研究科 佐野 亘		
開講場所		配当学年		単位数	2
				開講期	後期
講義担当部局	総合人間学部	曜時限	金3	授業形態	講義
〔授業の概要・目的〕					
<p>公共政策においても、問題を発見し、それに対する対策をたて、その対策を実施するプロセスを適切に管理・運営することが重要となる。本講義では、特に現実の政治・行政過程に着目し、よりよい公共政策を実現するうえで、実際上いかなる困難や問題が存在するかについて検討したい。本講義を通じて、受講者は、政策過程全体についての理解を深めるとともに、「政策の失敗」がなぜどのように起こるのかについて、自分なりに考察することができるようになることが望まれる。</p>					
〔授業計画と内容〕					
<p>【予定・内容】</p> <p>以下の課題について、1課題あたり1～2週の授業をする予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.公共政策における PDCA サイクル</li> <li>2.問題発見</li> <li>3.問題分析</li> <li>4.課題設定</li> <li>5.立案①(誰が行政サービスを提供するか:民間委託)</li> <li>6.立案②(誰が行政サービスを提供するか:NPO)</li> <li>7.立案③(不確実性への配慮)</li> <li>8.立案④(インセンティブシステムの有効性)</li> <li>9.決定</li> <li>10.実施</li> <li>11.評価</li> <li>12.政治と分析</li> <li>13.政治制度の根本的改善?</li> <li>14.まとめ</li> </ol>					
〔履修要件〕					
特になし					
〔成績評価の方法・基準〕					
定期試験による。					
〔教科書〕					
なし。					
〔参考書等〕					
授業時に紹介する。					
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕					

6.11 科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング

授業科目名	科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング		講義担当者 所属・氏名	文学研究科准教授 伊勢田哲治			
開講場所	文学研究科	配当学年	修士1, 2年	単位数	2	開講期	後期
講義担当部局	文学研究科		曜時限	火5	授業形態	演習	
〔授業の概要・目的〕							
<p>伊勢田ほか編『科学技術をよく考える』をテキストとして、科学技術と社会の接点で生じるさまざまな問題についてディスカッションを行い、多面的な思考法と、思考の整理術を学んでいく。</p> <p>理系の大学院のカリキュラムでは、科学と社会の関わりについて学ぶ機会はそれほど多く与えられない。他方、震災後の状況に特に顕著に「あらわれているように、科学技術が大きな影響をおよぼす現在の社会において、研究者が自らの研究の社会的含意について考えること、アカデミズムの外の人々と語り合うことの必要性は非常に高まっている。練習問題を使いながら、広い視野を持ち高いコミュニケーション能力を持った大学院生を養成することが目的である。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>授業はテーマにそったグループディスカッション、全体ディスカッション、講義、演習の組み合わせで行われる。テキストは以下の10のテーマから構成されているが、本授業ではそのうち6つをとりあげ、関連する知識やスキルとあわせて各2回程度を使って議論を行う。取り上げる題材は受講者の興味も踏まえて決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子組み換え作物</li> <li>・喫煙</li> <li>・脳科学の実用化</li> <li>・乳がん検診</li> <li>・血液型性格判断</li> <li>・地球温暖化</li> <li>・地震予知</li> <li>・宇宙開発への公的投資</li> <li>・動物実験</li> <li>・原爆投下の是非を論じること自体の正当性</li> </ul> <p>初回の授業でイントロダクションを行うとともに前半のスケジュールを決める(後半のスケジュールはあとで決める)。そのあとは2回を一単位として6セットの授業を行う。全13回。</p>							
〔履修要件〕							
特になし							
〔成績評価の方法・基準〕							
<p>3分の2以上の出席が単位発行の最低条件。 積極的な授業参加による平常点が70%、提出物の評価が30%で採点する。</p>							
〔教科書〕							
<p>伊勢田哲治ほか編『科学技術をよく考える クリティカルシンキング練習帳』(名古屋大学出版会) 授業内での著者割引での販売を予定</p>							
〔参考書等〕							
伊勢田哲治『哲学思考トレーニング』(ちくま新書)							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
<p>ディスカッションのテーマとなる箇所は事前に読むこと。また宿題という形で課題を課すのでそれをきちんと行うこと。</p> <p>オフィスアワー:水曜日15:00~16:30 開講場所は文学研究科教務係で確認してください。</p>							

## 6.12 可視化シミュレーション学

授業科目名	可視化シミュレーション学		講義担当者 所属・氏名	学術情報メディアセンター 教授 小山田耕二 特定准教授 江原康夫			
開講場所	N1(工学部3号館北棟) ／桂 A1-131	配当学年	修士	単位数	2	開講期	後期
講義担当部局	工学研究科		曜時限	火 4	授業形態	講義演習	
<p>〔授業の概要・目的〕</p> <p>本講義では、科学的方法において重要な役割を果たす可視化について体験的に学び、エビデンスを用いた政策策定に活用できるような知識を提供する。科学的方法が必要とされる問題設定を行う上で重要な社会調査法について体験的に習得させる。また、科学的方法における説明変数と被説明変数の選択や、その間の関係の発見などで重要な役割を果たすビジュアル分析環境についても学習する。説明変数と被説明変数の関係を可視化するうえで重要な統計シミュレーションについても体験的に習得させる。</p> <p>〔研究科横断型教育の概要・目的〕</p> <p>複雑高度化した問題を発見し、広い視野をもって解決法のデザインを行い、その解決策を多くの人にわかりやすく説明する能力を育成したり、新しい学問分野の創設につなげるような能力をもつ大学院生を養成する授業科目である。なお、本科目は、文部科学省より大阪大学と合同で選定された「政策のための科学」領域拠点が提供するカリキュラムの選択科目としても履修することが可能である。(この阪大、京大拠点(STIPS)のリンクは <a href="http://stips.jp/">http://stips.jp/</a>)。</p>							
<p>〔授業計画と内容〕</p> <p>項目・回数・内容説明を以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.ガイダンス (1回) 授業の目的・授業の進め方・成績について説明する。</li> <li>2.科学的方法と可視化 (2-3回) 科学的方法と可視化との関係について説明する。</li> <li>3.統計シミュレーション演習 (1-2回) 表計算ソフトを使った回帰分析手法について説明し、統計シミュレーションへの適用について演習を行う。</li> <li>4.科学的方法を支える視覚的分析環境 (1-2回) 科学的方法において有用な可視化技術とその適用について説明する。</li> <li>5.エビデンスを用いた政策策定 (2-3回) 科学的方法を使った政策策定法について説明し、実データを用いたエビデンス作成について演習を行う。</li> <li>6.社会調査法 (2-3回) 社会の声を可視化するための社会調査法(質的・量的)について説明し、クラスメンバーを対象とした調査研究を行う。</li> <li>7.政策策定演習 (1-2回) 社会の声を可視化した結果として設定された問題に対して仮説を設定し、その検証を行うための実験・観察について計画する。</li> <li>8.クラス発表会 (1回) 横断型研究分野における可視化技術を活用した問題解決法について調査し発表する。</li> </ol>							
<p>〔履修要件〕</p> <p>卒業論文の執筆またはそれと同等の経験を有すること。また表計算ソフトとそのマクロ機能については利用経験があることが望ましい。Excel およびその分析ツールが稼働し、インターネットに接続可能な PC を持参すること。</p>							
<p>〔成績評価の方法・基準〕</p> <p>本授業では、全回出席、授業への積極的な参加と、授業中に実施する発表内容(可視化技術と問題解決)の総合評価により証明する。</p>							
<p>〔教科書〕</p> <p>特になし</p>							
<p>〔参考書等〕</p> <p>小山田耕二著 「研究ベース学習」(コロナ社) 伊藤修一郎著 「政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法」(東大出版)</p>							
<p>〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕</p> <p>オフィスアワーは特に設けないが、適時メールで問い合わせること</p>							

## 6.13 医薬品の開発と評価

講義科目名	医薬品の開発と評価		講義担当者 所属・氏名	医学研究科・教授・川上 浩司			
開講場所	医学部G棟 2階セミナー室A	配当学年	専門職	単位数	1	開講期	後期後半
講義担当部局	医学研究科		曜時限	水 2	授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕							
<p>「医薬政策・行政」に引き続いて、医薬品、バイオ医薬品、医療機器の研究開発の過程について、前臨床研究、試験物の理化学試験と製造、動物を用いた非臨床試験、そして人を対象とした臨床試験、行政当局による承認、薬価の決定(費用対効果)、市販後評価というすべてのステップにおける安全性と有効性、経済性の評価について学びます。また、トランスレーショナルリサーチの実際、製薬産業の国際動向についても学びます。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品、医療機器、生物製剤の開発と評価の基本的考え方、方法論を理解している。</li> <li>・費用対効果、薬価とは何かについての基本的考え方、方法論を理解している。</li> <li>・薬剤疫学と市販後の基本的考え方、方法論を理解している。</li> </ul>							
〔授業計画と内容〕							
<p>第1回 11月29日 グローバル製薬企業の動向と開発薬事(白沢)</p> <p>第2回 12月6日 医薬品評価の潮流とアカデミアにおける医薬品開発(川上)</p> <p>第3回 12月13日 医薬品の創製、毒性と安全性(堀井)</p> <p>第4回 12月20日 市販後調査、市販後臨床試験(漆原)</p> <p>第5回 12月27日 医薬経済概論:費用対効果と薬価の考え方(大西)</p> <p>第6回 1月10日 日本の財政状況と医療・福祉(長谷部:予定)</p> <p>第7回 1月17日 薬剤疫学手法を用いた医薬品の評価(佐藤泉)</p> <p>第8回 1月24日 神戸医療産業都市構想の見学</p>							
〔履修要件〕							
<p>本コースの前週まで講義が行われる H074「医薬政策・行政」と連続、一括した内容となっており、原則として通して受講できない方は受け入れ不可とします。また、同日 3・4 限の H099「医薬品・医療機器の開発計画、薬事と審査」も本講義の内容を掘り下げたもので、合わせて受講することを推奨します。</p>							
〔成績評価の方法・基準〕							
講義の場への参加(50%)、レポート(50%)							
〔教科書〕							
使用しない							
〔参考書等〕							
<p>推奨テキスト</p> <p>Hartzema, A.C. et al. ed. 『Pharmacoepidemiology: An Introduction 3rd ed.』(HarveyWhitney)</p> <p>安生紗枝子ら『新薬創製への招待:開発から市販後の監視まで』(共立出版)</p> <p>川上浩司編著『遺伝子医学 MOOK 別冊はじめての臨床応用研究』(メディカルドゥ社)</p>							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
※オフィスアワー実施の有無は、KULASIS で確認してください。							

## 6.14 京都学のための科学

授業科目名	京都学のための科学		講義担当者 所属・氏名	学術情報メディアセンター 教授 小山田 耕二 特定准教授 江原康夫			
開講場所	総合研究 5 号館	配当学年	主として1, 2 回生	単位数	2	開講期	前期
講義担当部局	学術情報メディアセンター		曜時限	木4	授業形態	講義	
〔授業の概要・目的〕							
<p>本授業では、社会調査・認知構造の可視化を通して、京都のかかえる課題を明らかにして、その課題を解決する方法をデザインする。デザインされた解決策をグローバルな視点も含めた形で評価し、その評価結果を反映させた解決策を当該地域関係者に提示して、その有効性について評価する。具体的には、今年 6 月に策定された「京都ビジョン 2040」の項目をあるべき姿として、現状とのギャップを明らかにし、そこで認識された課題に対して解決策をデザインし、その有効性を検討させる。</p> <p>※本授業は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業)」(京都学教育プログラム)における「まなびよし」として開講されるものである。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>この科目を履修し、学修目的を達成した結果、社会調査・認知構造の可視化を用いて、社会のもつ課題の解決策をデザインできるようになる。解決策のデザインとして、科学的方法を代表する仮説検証法を活用できるようになる。</p> <p>また、社会調査に必要な基本的素養を身につけ 仮説検証で必要となるデータとしては、各種オープンデータ、そして必要な場合には、学生自ら取得したデータを利用できるようになる。</p> <p>以下のような課題について授業を実施する。(各回 1-3 コマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 京都学「京都ビジョン」の理解。グループ討議による問題意識の洗い出しと共有。</li> <li>2. 実証研究の進め方と科学論文の構成(IMRAD)、社会調査の方法の学習。</li> <li>3. テーマを具体化するための地域関係者による講義・討論。(25 年度調査で複数選出)</li> <li>4. 情報収集(地域関係者による講義、討論・学術論文の検索と評価)</li> <li>5. 情報整理(アンケート調査の実施:学生、自治体、地域住民、観光客など対象)</li> <li>6. 情報分析・表現(Excel を使った情報分析、Word を使った論文形式レポート作成、ピアレビュー、PowerPoint による発表)</li> <li>7. 最終発表(日本語による口頭発表、表彰)</li> </ol>							
〔履修要件〕							
インターネット、電子メール、ワープロ、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトについて利用経験がある、もしくは授業期間内に自習できること。							
〔成績評価の方法・基準〕							
別途ホームページで指示する執筆要領に従って執筆された研究成果レポート(60%)とグループディスカッションにおける積極性等(40%)を考慮して成績評価を行なう。							
〔教科書〕							
〔参考書等〕							
『研究ベース学習』(コロナ社)ISBN:139784339077933							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							

## 6.15 応用経済学

授業科目名	応用経済学		講義担当者 所属・氏名	経済学研究科 教授 依田 高典			
開講場所	法経東館 201 演習室	配当学年	1 回生以上	単位数	2	開講期	後期
講義担当部局	経済学研究科		曜時限	水3	授業形態	演習	
〔授業の概要・目的〕							
<p>テーマ フィールド実験・自然実験を極める</p> <p>この講義では、近年、経済学で非常に重要なツールとなっているフィールド実験、自然実験の基礎・発展・応用を勉強します。</p> <p>フィールド実験はランダム化比較対照の手法を用いた社会実験のことで、セルフセレクトションバイアスを排除した真の政策効果を同定する手法です。トリートメント効果(介入)の正しい効果を同定するために、集団をランダムにコントロールグループとトリートメントグループに振り分け、両グループのトリートメント前後の差の差をパネルデータ分析します。近年では、開発経済学の分野で、「貧乏人の経済学 - もういちど貧困問題を根っこから考える」(アビジット・V・バナジー, エスター・デュフロ)、「善意で貧困はなくせるのか?— 貧乏人の行動経済学」(ディーン・カーラン, ジェイコブ・アペル)の著作などで取り上げられています。</p> <p>予算の規模や運営の困難さから、フィールド実験を日本やアメリカのような先進国で、エネルギーや医療のような重要な研究テーマで実施することは困難でした。我が依田研究室では、2010 度から経済産業省との共同研究として、スマートグリッド(次世代電力システム)のフィールド実験の運営を行っています。そうしたノウハウも含めて、本講義では講義をしていきます。</p> <p>今後はフィールド実験が、ラボ実験と並んで、経済学の必須ツールとなっていくことでしょう。あわせて、ミクロ計量経済学、行動経済学など、一緒に勉強すれば、注目度の高い学術論文を執筆できるかもしれません。興味のある方はご参加下さい。前期に、行動経済学・(基本的)フィールド実験を勉強する「産業経済学」を開講していますので、そちらもあわせての履修をお薦めします。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>第 1 週から第 5 週</p> <p>フィールド実験の基本的な知識を講義または輪読します。参考書として、下記の 2 冊を上げます。</p> <p>[1] Rachel Glennerster, Kudzai Takavarasha, Running Randomized Evaluations: A Practical Guide, Princeton Univ Pr (2013/11/4)</p> <p>[2] Alan S. Gerber, Donald P. Green, Field Experiments: Design, Analysis, and Interpretation, W W Norton &amp; Co Inc (Np) (2012/5/29)</p> <p>第 6 週から第 10 週</p> <p>自然実験の基本的な知識を講義または輪読します。参考書として、下記の 1 冊を上げます。</p> <p>[1] Dunning, Thad (2012). Natural Experiments in the Social Sciences: A Design-Based Approach. Cambridge University Press.</p> <p>第 11 週から第 15 週</p> <p>フィールド実験・自然実験の論文を輪読します。例えば、次のような 2 論文を取り上げます。</p> <p>[1] Ida, T., Ito, K., Tanaka, M. (2013) "Using Dynamic Electricity Pricing to Address Energy Crises: Evidence from Randomized Field Experiments," Mimeo, Stanford University.</p> <p>[2] Ito, K. "Do Consumers Respond to Marginal or Average Price? Evidence from Nonlinear Electricity Pricing," American Economic Review, 104(2): 537-63, 2014.</p>							
〔履修要件〕							
ミクロ経済学・計量経済学に関する基礎知識を有すること・または同時に学習することが望ましい。							
〔成績評価の方法・基準〕							
基本的に、平常点を重視して評価します。(講義中のプレゼンテーション、必要に応じてレポートの提出など)							
〔教科書〕							
授業中に指示する							
〔参考書等〕							
授業中に紹介する							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
オフィスアワー 予約に応じて随時(内線 3477 オフィス新棟 614 号室) ※オフィスアワー実施の有無は、KULASIS で確認してください							

## 6.16 政策のための研究方法論

講義科目名	政策のための研究方法論		講義担当者 所属・氏名	学際融合教育研究センター 特任教授 カール・ベッカー			
開講場所	国際高等教育院棟 演習室 24	配当学年	M1-2	単位数	2	開講期	前期
講義担当部局	医学研究科		曜時限	水 1	授業形態	講義・演習	
〔授業の概要・目的〕							
<p>社会政策を研究するためには、社会学、心理学、科学史、政治経済などの学問体系を股がらざるを得ない。本演習では、それぞれの学問領域の研究手法を土台に、情報の検索・収集・分析から、論理構造や政策作りまで、学会発表を含め、高度な論文の研究法と書き方を目指して指導する。本演習によって、院生は信憑性と注目度の高い情報を直ぐに探せ、自分の研究論文の先行研究として位置付けられるようになる。そして論文の論理的構築と標準的形式を理解して、研究論文や出版投稿論文の基礎知識を身に付ける。</p> <p>本演習によって、学生は信憑性と注目度の高い情報を直ぐに探せ、それらを自分の研究論文の先行研究として位置付けられるようになる。そして論文の論理的構成と標準的形成を理解して、卒業論文や出版論文の基礎知識を身に付ける。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>下記の様な内容を毎週紹介し、それぞれに関する宿題を一緒に添削・訂正する：</p> <p>第1回 4月12日：オリエンテーション：メモの取り方、学術的集中法等</p> <p>第2回 4月19日：研究テーマの選び方・絞り方・目的と研究題目</p> <p>第3回 4月26日：論文調の表現や注意点・中心的概念の定義の種類</p> <p>第4回 5月10日：基礎文献の特定・確認・検索方法</p> <p>第5回 5月17日：Cinii/Web of Science による有用記事+目的の明瞭化</p> <p>第6回 5月24日：書評で注目される著書の検索</p> <p>第7回 5月31日：被引用件数で雑誌記事を検索</p> <p>第8回 6月7日：アブストラクトの使い方と書き方</p> <p>第9回 6月14日：アウトライン・目次 論理構造の形成</p> <p>第10回 6月21日：新聞記事・大宅壮一 (+文献表)</p> <p>第11回 6月28日：アウトライン・目次 の実例再検討</p> <p>第12回 7月5日：英語と日本語の博論・非売品～政府白書から科研・財団報告書</p> <p>第13回 7月12日：目次の最終構成・文献表作成確認</p> <p>第14回 7月19日：総まとめ、宿題提出</p> <p>第15回 7月26日 フィードバック</p>							
〔履修要件〕							
論文作成は、数冊の本を読めば出来る作業ではなく、広範囲な文献収集を要するので、計画的な時間配分を心がけられる大学院生を期待する。							
〔成績評価の方法・基準〕							
中間の提出：10%、学期末レポート試験：30%、毎回の出席と宿題提出：60%、と計算して評価する。なお、4回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。							
〔教科書〕							
授業中に紹介・配布する。							
〔参考書等〕							
(参考書)							
高橋昭男 『仕事文の書き方』(岩波新書)							
小笠原誠 『読み書きの技法』(筑摩書房)							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
授業外学習としては、毎回、受講者の研究テーマに関する作文か、図書館やデータベースで資料に基づく調査か、いずれの作業を必要とする。毎週提出された作文や資料は、次週に返却され、その積み重ねで成果が上がってゆく。またディスカッションの種にもなるので、その予習と提出は欠かせない。							



6.17 医療政策のELSI [ELSI 이슈ー科目群]

講義科目名	医療政策のELSI [ELSI 이슈ー科目群]		講義担当者 所属・氏名	学際融合教育研究センター 特任教授 カール・ベッカー			
開講場所	国際高等教育院棟 演習室 24	配当学年	M1-2	単位数	2	開講期	後期
講義担当部局	医学研究科		曜時限	水 1	授業形態	講義・演習	
〔授業の概要・目的〕							
<p>本講義では、倫理・法律・社会学(ELSI)の立場から高齢社会の問題等を文化論的に探求する。例えばインフォームド・コンセント(治療選択・自己決定権)、Truth-Telling(告知)、医療情報の公開・透明性・所有権、を出発点として、公共資源分配と医療保険制度の問題点を提起し、また医療倫理学の思考法の問題点も検討する。コンフリクトに出遭う時、狭い主観的な見地から、より多元・多様な見解・理解ができるようになることは、本授業の取り上げる問題解決のみならず、今後の政策検討に於いて有益なスキルになると思われる。</p> <p>マニュアルやルールブックによる絶対唯一の正解ではなく、その文化と状況に応じて最も相応しい倫理行動を探る、頭の訓練を繰り返す。コンフリクトに出遭う時、狭い主観的な見地から、より多元・多様な見解・理解ができるようになることは、本授業の取り上げる問題解決のみならず、今後の人生に於いても有益なスキルになると思われる。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>下記の様な内容を毎週紹介し、それぞれに関する宿題を一緒に添削・訂正する：</p> <p>第1回 10月04日 倫理とは？ 政策に於けるELSIとは？ 自己紹介と生命倫理学の紹介</p> <p>第2回 10月11日 症例紹介とその分析法・ステークホルダー論</p> <p>第3回 10月18日 人口と医療福祉費配分問題</p> <p>第4回 10月25日 家庭内暴力・虐待</p> <p>第5回 11月01日 重大欠陥新生児</p> <p>第6回 11月08日 障害者福祉</p> <p>第7回 11月15日 致命的選択/優先順位</p> <p>第8回 11月22日 QALYs/医療政策</p> <p>第9回 11月29日 ACP・AD・POLSTと尊厳死・安楽死・自死</p> <p>第10回 12月13日 脳死・臓器移植</p> <p>第11回 12月20日 死別と悲嘆のケア</p> <p>第12回 12月27日 自己健康管理</p> <p>第13回 01月10日 動物実験・研究倫理とCOI</p> <p>第14回 01月17日 総まとめ</p> <p>第15回 01月24日 フィードバック</p>							
〔履修要件〕							
特になし							
〔成績評価の方法・基準〕							
平常点評価 出席 40%、中間課題 20%、期末課題 40%							
〔教科書〕							
多くのビデオや参考資料を授業中に紹介する							
〔参考書等〕							
〔その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）〕							
毎回、宿題を提出してもらい、前回の宿題を返却する。その積み重ねの過程によって、スキルが身につくので、途中で休んだりすると、次の段階がわからなくなる。よって、毎回の出席と宿題提出が重要になる。							

## 6.18 健康情報学 I

授業科目名	健康情報学 I		講義担当者 所属・氏名	医学研究科 教授 中山健夫 他			
開講場所	G 棟 2F セミナー室A	配当学年	主に1・2回生	単位数	2	開講期	後期
講義担当部局	医学研究科		曜時限	金2	授業形態	講義形式+実習	
〔授業の概要・目的〕							
健康・医療情報、データや知識の収集、蓄積、伝達、検索、評価法、情報リテラシー、ヘルス・コミュニケーション（リスクコミュニケーション含む）、個人情報保護などの情報倫理の課題について講義する。疫学やEBMを基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、さまざまな情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法を考える。インターネットによる健康情報の評価に関しては、NPO 法人日本インターネット医療協議会による eヘルス倫理コード version 2 を利用して実際のウェブサイトの評価・作成の手法を学ぶ。さらに欧米の医療関係者に関心の高い性格テスト・MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)のワークショップを通して、個人の情報処理・認知の特性とコミュニケーションに関して体験的理解を深める。							
〔授業計画と内容〕							
情報とは「意思決定において不確実性を減じるもの」と定義されます。社会における健康・医療に関する情報の適切なあり方、そして個人の特性理解の視点から、情報のコミュニケーションについて考えてみたいと思います。							
(※変更の可能性があるので開講日に確認して下さい)							
第1回 10月6日 疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門(1)							
第2回 10月13日 疫学とEBMからの健康情報リテラシー入門(2)							
第3回 10月20日 患者視点の情報: Quality of life と Patient reported outcome							
第4回 10月27日 インターネットとe-ヘルス							
第5回 11月10日 質の高い医療情報の集約・共有・普及: 根拠に基づく診療ガイドラインを考える							
第6回 11月17日 ナラティブ情報の意義と可能性							
第7回 11月24日 「がん」をめぐる患者・国民・医療者向け情報の整備							
第8回 12月1日 疫学情報と因果関係論							
第9回 12月8日 ベネフィットとリスクのコミュニケーション							
第10回 12月15日 ヘルス・リテラシーとリスク・コミュニケーション							
第11回 12月22日 代替医療とプラセボ: 健康情報とコミュニケーションの視点から							
第12回 1月5日 パブリックヘルス・インフォマティクス							
第13回 1月11日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ: MBTI (エムビーティーアイ: Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 13時30分~17時30分							
第14回 1月12日 個人の情報処理・認知特性からコミュニケーションへ: MBTI (エムビーティーアイ: Myers-Briggs Type Indicator) セミオープンワークショップ 9時~12時、13時~16時							
第15回 1月19日 総合討論・個別発表「健康情報学Iを履修して」							
〔履修要件〕							
疫学または根拠に基づく医療 (evidence-base medicine: EBM) の基礎知識を持つことが望ましいが、必須ではない。							
〔成績評価の方法・基準〕							
毎回の小レポート提出 80%、発表 20%							
〔教科書〕							
講義資料は配布							
〔参考書等〕							
中山健夫著 健康・医療の情報を読み解く: 健康情報学への招待 (丸善書店)							
中山健夫監修 ヘルスコミュニケーション実践ガイド (日本評論社)							
中山健夫・杉森裕樹監訳 FDA リスク&ベネフィットコミュニケーション (丸善書店)							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
面談希望などはまずメールでご連絡下さい。nakayama.takeo.4a@kyoto-u.ac.jp							

## 6.19 文献評価法

授業科目名	文献評価法		講義担当者 所属・氏名	医学研究科 教授 中山健夫 他			
開講場所	G棟2F セミナー室 A	配当学年	主に1・2回生	単位数	1	開講期	前期
講義担当部局	医学研究科		曜時限	月4	授業形態	講義＋実習	
〔授業の概要・目的〕							
<p>臨床研究を含む社会健康医学(パブリックヘルス)領域において、基本的なスキルの1つである文献の評価方法について講義を行います。</p> <p>疫学・EBM(根拠に基づく医療)の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索し、適切に評価した上で利用する方法を学習します。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>EBM や疫学の基礎知識を学びながら、社会健康医学の学習・研究を進める基礎として、系統的な文献評価法の習得を目指します。</p> <p>第1回 4月10日 オリエンテーション(中山・高橋)</p> <p>第2回 6月12日 CASPによる臨床試験論文の評価(中山)</p> <p>第3回 6月19日 コクラン共同計画によるコクラン・レビューを通して(田中・中山)</p> <p>第4回 6月26日 ケースを用いたバイアスの評価(1)(石崎)</p> <p>第5回 7月3日 ケースを用いたバイアスの評価(2)(石崎)</p> <p>第6回 7月10日 CASPによるメタアナリシス論文の評価(中山)</p> <p>第7回 7月24日 AGREE 法による診療ガイドラインの評価(中山)</p> <p>第8回 7月31日(4・5限) メタアナリシスセミナー(野口・四方・田中・中山)</p>							
〔履修要件〕							
特になし							
〔成績評価の方法・基準〕							
毎回の小レポート(30%)および課題レポート提出(70%)							
〔教科書〕							
講義資料は配布							
〔参考書等〕							
<p>中山健夫, 津谷喜一郎編著. 臨床研究と疫学研究のための国際ルール集. ライフサイエンス出版.</p> <p>Hennekens CH, Buring JE. Epidemiology in Medicine. Little Brown &amp; Co, 1987.</p> <p>Michael M, Boyce WT, Wilcox AJ. Biomedical Bestiary: An Epidemiologic Guide to Flaws and Fallacies in the Medical Literature. Little Brown &amp; Co, 1984.</p>							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
面談希望の場合は、予めメールでご連絡ください。 nakayama.takeo.4a@kyoto-u.ac.jp							

## 6.20 技術者倫理と技術経営

授業科目名	技術者倫理と技術経営		講義担当者 所属・氏名	工学研究科 教授 榎木, 西脇, 富田, 小森(雅), 土屋, 中西, 山口, 田岡, 伊勢田			
開講場所	工学部 3号館 N1 講義室	配当学年	大学院	単位数	2	開講期	前期
講義担当部局	工学研究科		曜時限	木3	授業形態	講義と実習	
〔授業の概要・目的〕							
<p>将来、社会のリーダー、企業などでのプロジェクトリーダーとなるべき人間が基本的に知っておくべき技術者倫理と技術経営の基礎知識を講義し、それをもとに、グループワークとしての討論と発表をする。「倫理」は一般的に用いられる言葉であるが、「技術者倫理」は、ものづくりや工学に携わる技術者や研究者が社会的責任を果たし、かつ自分を守るための基礎的な知識、知恵であり、論理的思考法である。技術経営とは、技術者・研究者が技術的専門だけにとどまるのではなく、技術を効率的・効果的に事業成果に結びつけるための基礎的な思考法を提供するマネジメント論である。以上について、各専門の講師団を組織し、講義、討論、発表を組み合わせた授業を行う。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>工学倫理の概論(1回)：工学倫理の範囲と基本知識について概説する。</p> <p>医工学倫理(1回)：医工学の分野における倫理について概説する。</p> <p>日本技術士会および海外の工学倫理(1回)：日本技術士会における工学倫理と海外での工学倫理の捉え方について概説する。</p> <p>製造物の安全と製造物責任(2回)：技術者の重要な役割としての安全確保のための専門技術と法、規則、規格との関連を示す。法を遵守するに際しての倫理的な行動原則を保有することの必要性、困難性を知る</p> <p>技術者の社会的責任と技術者倫理 (2回)：(1)科学技術が人間社会や自然環境等に対して与える影響の理解、(2)技術者が社会や公衆に対して果たす役割と社会的責任についての理解、(3)以上を踏まえた技術者倫理的判断能力と問題解決能力の理解(事例研究含む)、(4) ディスカッション結果の発表・討論・講評</p> <p>グループディスカッション発表 (1回)：【グループディスカッション結果の発表、全体討論。4室で実施】</p> <p>技術者倫理の歴史と哲学(1回)：技術者倫理の歴史と哲学</p> <p>技術者倫理の課題発表(1回)：技術者倫理の課題発表</p> <p>技術経営の手法(2回)：プロダクト・ポートフォリオ、競争戦略、事業ドメイン、市場分析技術経営。</p> <p>企業での研究開発の組織戦略 (2回)：企業における研究開発を組織戦略と管理理論の観点から説明する。また企業において活躍する技術者や研究者のあり方を事例研究する。</p> <p>プレゼンテーションとディスカッション(1回)：グループごとに課せられた課題に対する調査・検討結果のプレゼンテーションとディスカッションを行う。</p>							
〔履修要件〕							
〔成績評価の方法・基準〕							
個人レポート、グループごとの時間外討論と発表・レポートを課します。これらをもとに点数で評価を行う。							
〔教科書〕							
特になし							
〔参考書等〕							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
講義時間外に討論をせねばならない。							

## 6.21 医療経済学 A

授業科目名	医療経済学A		講義担当者 所属・氏名	慶応義塾大学経営管理研究科 後藤 励			
開講場所	法経東館演習室	配当学年	1回生以上	単位数	2	開講期	前期
講義担当部局	経済学研究科		曜時限	隔週木	授業形態	演習	
				3・4			
〔授業の概要・目的〕							
医療保険・医療サービス供給の諸制度の現状や問題点について、標準的な教科書を用いた講義と参加者の研究テーマに関連した文献抄読を行います。							
〔授業計画と内容〕							
取り上げるテーマの候補は以下の通りです。							
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医療サービス需要</li> <li>● 医療サービスの生産と費用</li> <li>● 医療サービス供給</li> <li>● 医療における市場の失敗と政府の役割</li> <li>● 医療における労働市場</li> <li>● 医療サービスの質</li> <li>● 経済評価における厚生主義と非厚生主義</li> <li>● 医療の経済評価の基礎</li> <li>● 医療の効果の測定と価値付け</li> <li>● 医療の経済評価の方法医療の経済評価と政策決定</li> </ul>							
〔履修要件〕							
特になし							
〔成績評価の方法・基準〕							
出席および授業中の議論への貢献度合いで評価							
〔教科書〕							
開講時に指示します							
〔参考書等〕							
開講時に指示します							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
開講時に指示します							

6.22 共生社会環境論演習3B

授業科目名	共生社会環境論演習3B		講義担当者 所属・氏名	人間・環境学研究科 教授 佐野亘			
開講場所		配当学年		単位数	2	開講期	後期
講義担当部局	人間・環境学研究科		曜時限	火5	授業形態	演習	
<p>〔授業の概要・目的〕</p> <p>本演習の目的は、民主主義と政策とのかわりについて、理論的に検討することである。適切な公共政策を実現するにはどうすればよいのか、そこで民主主義はどのような役割を果たしうのか(果たすべきなのか)、さらには、市民、政治家、官僚、専門家、NPOなどはそれぞれどのようにかわるべきなのか、といった問題について議論したい。</p>							
<p>〔授業計画と内容〕</p> <p>【予定・内容】 文献講読をおこなう。 どのような文献を読むかについては、受講者と相談したうえで、決定する。</p>							
<p>〔履修要件〕 特になし。</p>							
<p>〔成績評価の方法・基準〕 出席および発表にもとづく。</p>							
<p>〔教科書〕</p>							
<p>〔参考書等〕 授業中に指示</p>							
<p>〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕</p>							

6.23 まちづくりとまち経営

講義科目名	まちづくりとまち経営 (Town and City Management)		講義担当者 所属・氏名	経営管理大学院 教授 御手洗潤			
開講場所	総合研究二号館3階マル チメディア講義室	配当学年	1・2	単位数	2	開講期	後期
講義担当部局	経営管理大学院		曜時限	木2(一 部1・2)	授業形態	実務科目	
〔授業の概要・目的〕							
<p>都市は、人口や産業が集積し、多くの事業者や住民がビジネスや生活の場として利用する、経済活動や生活の基本となる場である。</p> <p>我が国の都市は、人口減少時代という新たな局面を迎え、中心市街地の空洞化や人口密度低下による賑わい衰退や都市機能の低下、まち自体の老朽化、地域コミュニティの衰退、景観破壊等のまちの魅力の低下といった課題が起きてきている一方、密集市街地の残存、巨大地震へのソフト・ハードの対応の遅れ等の課題も依然残されている。しかしながら、財政状況のひっ迫、社会の複雑化、課題の多様化等の理由から公共主体のみでの対応が難しくなっている。このため、住民や事業者、まちづくり会社、NPO等の民間主体への期待が高まってきており、さらに実際にこれらの主体がPPPやエアリアマネジメントといった新たな手法で従来型の公共サービスを越えた官民中間領域のまちづくりを担う機会が増加している。</p> <p>本講義は、政策立案の最前線やまちづくりの現場で実際に問題となっている課題や、近年創設された制度、現在国・地方公共団体で議論されている解決の方向性、まちづくりの現場で行われている取り組み・工夫等、最新の生の議論や政策、実例を幅広く伝え、受講生が自ら課題を共感し、解決策を考える講義とする。具体的には、前半でまちづくりの全般的な課題と制度を分野別に学び、後半で国又は地方公共団体の実務者による講話を行う。また、まちづくり現場のフィールドワークとして、まちづくりプロジェクトを担う実務者から話を聞くとともに、現地調査を行う。</p> <p>本講義は、上記を学ぶことにより、現代社会の事業活動・価値創造の多くが行われる「都市」の創造・維持活動に関する高度な専門的知識の習得と、高度職業人として不可欠な多くの主体の利害が絡みあう中での調整能力・課題解決能力の養成を目指すものである。</p>							
〔授業計画と内容〕							
<p>第1回 イントロダクション及びまちづくりの歴史と基本的な仕組み</p> <p>第2回 防災まちづくり</p> <p>第3回 コンパクトシティの形成</p> <p>第4回 景観・歴史まちづくり</p> <p>第5回 都市の国際競争力の強化／市街地整備・街づくりの事業</p> <p>第6回 外部講師による国又は自治体のまちづくりの取組の講話(昨年実績:「都市政策の最近の動向について～都市の国際競争力の強化と都市開発の海外展開～」国土交通省都市局都市政策課長)</p> <p>第7回 外部講師による自治体又は民間のまちづくりの取組の講話(昨年実績:「リニア時代の名古屋のまちづくり」名古屋市住宅都市局長)</p> <p>第8回 まちづくりにおける官民連携(エアリアマネジメント)</p> <p>第9回 まちづくりにおける官民連携(PFIとPPP他)</p> <p>第10・11回(1・2限の時間を使用) フィールドワーク(まちづくりの現地調査及び講話)(昨年度実績:大阪ビジネスパーク)</p> <p>第12回 フィールドワーク(まちづくりの現地調査及び講話)(昨年度実績:京都・姉小路界限)</p> <p>第13回 外部講師による民間のまちづくりの取組の講話又はフィールドワーク(昨年度実績:彩都のまちづくりの講話:阪急電鉄。長浜のまちづくりの講話:長浜まちづくり会社)</p> <p>第14回 発表報告会:受講生によるレポート案の事前発表会</p> <p>第15回 発表報告会(予備日)</p> <p>以上はいずれも変更ありうる</p>							
〔履修要件〕							
<p>どんな分野でもよいのでまちづくりに興味があること。木曜1・2限の時間を利用し現地集合でまちづくりプロジェクト現場のフィールドワークを1～2回程度行う予定のため、履修に当たっては注意のこと。なお、簡単な宿題をだすことがある。</p>							
〔成績評価の方法・基準〕							
<p>授業への出席・参加状況(30%)、発表報告会(30%)、期末レポート(40%)</p>							
〔教科書〕							
<p>指定せず、授業時に配布する資料を使用する。</p>							
〔参考書等〕							
<p>○小林重敬『最新 エリアマネジメント』学芸出版社、2015、○蓑原敬 編著『都市計画根底から見なおし新たな挑戦へ』学芸出版社、2011、○原田大樹『例解 行政法』第2部第4章都市法、東京大学出版会、2013、国土交通省社会資本整備審議会『新たな時代の都市マネジメント小委員会中間とりまとめ(平成25年8月)』 <a href="http://www.mlit.go.jp/common/001101779.pdf">http://www.mlit.go.jp/common/001101779.pdf</a></p>							
〔その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)〕							
<p>メールで事前にアポイントをとること junmitarai@gsm.kyoto-u.ac.jp</p>							

## 7. (参考) 大阪大学カリキュラム

科目カテゴリー	開講部局(課程)	授 業 科 目 名	単 位	学 期	
入門必修科目(2単位)	CO デザインセンター(院)	科学技術イノベーション政策概論 A	1	春	
	CO デザインセンター(院)	科学技術イノベーション政策概論 B	1	夏	
必修科目(2単位)	CO デザインセンター(院)	科学技術コミュニケーション演習	2	集中	
連携必修科目(2単位)	CO デザインセンター(院)	研究プロジェクト	2	通年	
選択科目: 8単位以上 (選択科目 I および II か ら、それぞれ 2 単位以上を履 修)	選択科 目 I : 基軸科 目群	CO デザインセンター(院)	科学技術コミュニケーション入門 A	1	春
		CO デザインセンター(院)	科学技術コミュニケーション入門 B	1	夏
		CO デザインセンター(院)	科学技術コミュニケーション入門 A	1	秋
		CO デザインセンター(院)	科学技術コミュニケーション入門 B	1	冬
		CO デザインセンター(院)	科学史・科学哲学入門	1	春
		CO デザインセンター(院)	科学技術社会論入門	1	夏
		CO デザインセンター(院)	科学技術イノベーション政策総合演習	2	集中
		人間科学研究科 (博士前期)	フィールド調査法特講	2	春・夏
		人間科学研究科 (博士前期)	社会における科学技術特定演習	2	秋・冬
		工学研究科(博士前期)	サステイナビリティ評価・技術論	2	春・夏
	選択科 目 II : イシュー 科目群	基礎工学研究科 (博士前期)	科学技術移転論	2	秋・冬
		国際公共政策研究科 (博士前期)	公共政策 I	2	秋・冬
		CO デザインセンター(院)	科学技術と社会特論 A	1	秋
		CO デザインセンター(院)	科学技術と社会特論 B	1	冬
		CO デザインセンター(院)	科学技術と公共政策 A	1	秋
		CO デザインセンター(院)	科学技術と公共政策 B	1	冬
		CO デザインセンター(院)	特別講義 A(Crossing Borders in Higher Education and Research A)	1	春
		CO デザインセンター(院)	特別講義 B(Crossing Borders in Higher Education and Research B)	1	夏
		人間科学研究科 (博士前期)	科学技術と文化特講	2	秋・冬
人間科学研究科 (博士前期)	科学技術と文化特定研究 I	2	春・夏		
人間科学研究科 (博士前期)	科学技術と文化特定研究 II	2	秋・冬		
人間科学研究科 (博士後期)	科学技術と文化特別研究 I	2	春・夏		



	人間科学研究科 (博士後期)	科学技術と文化特別研究Ⅱ	2	秋・冬
	法学部	特別講義(インターネット技術と法規制)	2	秋・冬
	法学研究科(博士前期)	総合演習(生命倫理と法)	2	秋・冬
	法学研究科(博士後期)	特定研究(生命倫理と法)	2	秋・冬
	医学系研究科(修士)	ライフサイエンスの倫理と公共政策学	2	春・夏
	工学研究科(博士前期)	産業環境マネジメント論	2	春・夏
	工学研究科(博士前期)	サステナブルシステムデザイン論	2	春・夏
	基礎工学研究科 (博士前期) (ナノサイエンスデザイン教 育研究センター提供)	ナノテクノロジー社会受容特論 A	2	不開講
	基礎工学研究科 (博士前期) (ナノサイエンスデザイン教 育研究センター提供)	ナノテクノロジー社会受容特論 B	2	春・夏
	国際公共政策研究科 (博士前期)	環境法	2	春・夏
	国際公共政策研究科 (博士後期)	特殊研究(環境法)	2	春・夏
	国際公共政策研究科 (博士前期)	特殊講義(開発と環境)	2	秋・冬
	国際公共政策研究科 (博士後期)	特殊研究(開発と環境)	2	秋・冬
	国際公共政策研究科 (博士前期)	特殊講義(人事の経済分析 1)	2	通年
	国際公共政策研究科 (博士後期)	プロジェクト演習(人事の経済分析 3)	2	通年
	国際教育交流センター(院)	グローバル健康環境	2	不開講
	国際教育交流センター(院)	Food Security, Globalization and Sustainability	2	不開講